

リスクマネジメントニュース

社会福祉法人こうほうえん リスクマネジメント委員会編 2012/1/18 第5号

排泄が起因となるリスクとその低減

～おむつを肥溜めとしない・西大井発信～

排泄が起因となるリスクは転倒だけではありません。**おむつを肥溜めにすると**尿路感染症など泌尿器系の感染症に罹ることもリスクです。

ケアホーム西大井で実践していることは、トイレでの自排尿、自排便を促す支援です。

排泄のタイミングが分からない方にノムダスハカル&ゆりりん実施 その方にあった排泄のタイミングで随時トイレ案内（過去に昼夜問わず1時間おきのトイレ案内時期もありました。）

夜間一部支援が必要な方で、転倒のリスクが高い方に眠りスキャンを使用 夜間、排泄が原因となる転倒を防ぐツールとして使用検討中。その方の睡眠と排泄リズムを把握することの補助的役割で使用します。

残尿がある方は、**15分間位**（個人差あり）座っていただく。前傾姿勢をしていただき腹圧をかけていただく。それでも出ない場合は、腹部マッサージを行い、膀胱を刺激する。それでも出ない方はウォシュレットを使い、陰部を刺激して排尿を促します。（水の流れる音も排尿を促します。）

座位姿勢が保てない方は、職員が寄り添い姿勢を維持する。または、ファンレストテーブル（ふんばるくん）を使用し、腹圧のかかる座位を維持していただく。ファンレストテーブルはあくまでも腹圧をかけるためのツールで安全確保のツールではありません。ですので、座位保持が出来ない方、危険認知能力が低下している方からは離れない。

福復五箇条を基本とします。下剤をなくし更に元気に歩こうプロジェクト(食事の全量摂取・飲水1500ml以上・サンファイバー・歩行)で、トイレでの自排便に効果をあげています。

皆さんも普段、排尿・排便を促す支援を行っていると思いますが・・・

仙骨部をさすったり、軽く叩いたりして刺激する

腹部マッサージ

一度立ち上がってもらう

座りなおしを行う（浅く座ったり、深く座る、腰を動かすようにする
前かがみ等を行っていき、残便・残尿を出し切ります。

～ を行うと**15分**は必要です。

ケアホーム西大井の排泄状況は・・・

昼間 テープ式おむつは3人 夜間 テープ式おむつ6人(ベッド上での支援6人)

他ご利用者は昼夜問わず、自排尿・自排便を促すため、トイレでの支援を行っています。



排泄は最優先。何よりも優先されるべきことです。快適で尊厳ある排泄のために、その方の排泄のサインを見逃さないことが重要です。

吸引器 緊急時すぐ使えますか？ 焦らない為の日頃の確認と定期点検の必要性

設置場所が決まっていますか？

どこに設置してあるか確認していますか？

定期的に点検していますか？

吸引器がいつもの場所がない時がありませんか？そんな時に限って急を要する事が起こり、動揺し慌ててしまいます。また、「いざ」という時に作動しないと意味がありません。

仕事を始める前に吸引器の場所を確認しておきましょう。

<点検のポイント>

モニター～接続チューブの部位に隙間や亀裂は無いですか 正しく作動しません

・接続部位の確認 ・ホース、吸引ビンに穴が開いたり、ひびがはいっていないか確かめる

モニター部分に吸引物が入り込まないよう、吸引ビンとモニターの間にフィルターがあります。吸引物が入り込むと、モニターが故障します。

・吸引ビンは細目に観察 ・定期的に廃液し逆流に注意する。(汚れた水は細目に破棄する)

必要物品の清潔保持

不潔な物品での吸引は、感染を引き起こす原因となります

・吸引器の表面 日常的に清掃する ・内部のメンテナンス 定期的に受ける

・吸引ビン、接続チューブ 定期的に洗浄し交換する

清掃をした後は作動するかどうか必ず確認します。

作動した際、いつもと違う音がしていないか聞き分けるのも故障の発見につながります